

第7回倉敷市総合計画審議会 第4分科会議事録（要旨）

会 議 名 称	第7回 倉敷市総合計画審議会 第4分科会 (保健・医療・福祉)	
開 催 日 時	令和2年9月29日(火) 10:00～11:20	
開 催 場 所	倉敷市役所 議会棟3階 第2会議室	
出席者 ※敬称 略	審議会 委 員	浅野 静子, 兒山 和子, 竹中 麻由美, 難波 朋裕, 三村 英世, 守永 一彦
	市職員	企画経営室長, 総合計画策定研究班員ほか担当部署職員, 事務局
傍聴者	傍聴者	なし
関係者	関係者	委託事業者
会 議 次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 倉敷市第七次総合計画（素案作成用資料）について <ol style="list-style-type: none"> (1) 基本構想及び基本計画について（報告） (2) 倉敷みらい創生人口ビジョン及び倉敷みらい創生戦略について 3. 今後の予定について 4. その他 5. 閉会 	

1. 開会

2(1). 基本構想及び基本計画について (事務局説明)

2(2). 倉敷みらい創生人口ビジョン及び倉敷みらい創生戦略について (事務局説明)

審議

分科会長	本日の議題はみらい創生戦略についてだが、冊子に関しては今回が最終なので、気が付いた点を自由に挙げていただきたい。
分科会長	みらい創生戦略は、基本計画の該当箇所から作られているという認識でよいか。
市	はい。人口減少や東京圏への一極集中の是正といった地方創生に寄与するものを抽出し再掲している。
分科会長	ボリュームのある冊子だが、見やすさなど、皆さんの印象はどうか。
委員	冊子が完成したら、どういった人たちが見るのか。
市	冊子は主に関係部署や他の自治体に配布する。市民の皆様には、紙の概要版を配布して倉敷市の向こう10年の取組を見ていただく。また、冊子については、データをホームページに掲載する。紙の冊子が必要あれば、販売もしている。
委員	労働人口をどう確保していくのか、ビジョンは記載されているのか。
市	具体的なビジョン等は、総合計画ではなく個別計画で記載する。
委員	人員配置の効率化による人材不足に問題を感じている。例えば、新型コロナウイルス感染症の対応を十分に行うには、現在配置されている保健所の職員だけでは足りない。基本計画の中に「人員を増やす」といった記述があってもよい。また、人口は48万人を維持する必要があるのか。
市	48万人の人口がどんどん減っていくと、コミュニティの衰退や、地域の活力の低下が避けられないため、倉敷市全体では人口減少抑制の目標を立てて進めている。 総合計画は、人口を維持しながら地域を活性化するために、様々な分野で取組を行っていくという広い視点の計画なので、すべてのことを細かく割り振ることは難しい。
委員	それはわかるが、だからこそ根っこの部分で方針をきちっと出しておいたほうがよい。10年先に水島の企業があるかどうかということまで考えなければいけない。高齢者はどこへも行けないので必ず残る。固定費が増えれば、新しいことにお金が使えなくなる。せつかくの機会なので、産業構造の変化への対応にも触れることができたらという思いがある。
市	ご指摘のことは、18頁の人口減少の問題や20頁のインフラの維持に密接に関わってくることである。 国は、その解決策としてSociety5.0をはじめとする先端技術を活用

	<p>するとの方針を示している。他の分科会で議論しているところだが、116 頁の先端技術の導入や 58 頁の産業関連の頁にある課題や、それに対する基本方針で触れており、具体は個別計画で示すことになる。</p>
分科会長	<p>委員のご指摘はすべての分科会に関わることで、全体像の中で示すようなことかもしれない。他の分科会との調整も必要なので、事務局で検討していただくということでのよろしいか。他にあるか。</p>
委員	<p>人口減少は日本全国の問題である。地方が総合戦略を作っても、国の協力がなくなかなか前には進まない。国が地方を後押しして、サポートしていくといった連携の部分はどうなっているのか。</p>
市	<p>地方版総合戦略に掲げた内容は、国の補助の対象になる。戦略に掲げることで補助の対象にできるので、内容はかなり幅広に作ってある。人口減少について、国は「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を定め、今後進めていくべき方向性を示してくるので、各自治体はそれに準じて戦略を作るといった関係で連携している。</p>
委員	<p>国が示したメニューに該当しないと補助の対象にならないということなので、どこの市町村も輪切りの計画になりがちで、現状は、補助に該当するかしないかで作らざるを得ないと感じている。国が示したものに合わせるのではなくて、地域の特性や個性を踏まえた倉敷らしい、地方らしい戦略を作って、国にこうしてもらわなければいけないといった強力なアピールをして、動いてもらうことが今後は必要と考える。</p>
委員	<p>総合計画は市の最上位計画であるため、ここに文言が書かれていれば、ぶら下がる個別計画につながっていくというしくみになっている。第4分科会であれば、保健・医療・福祉の分野の方が必要だと思うことが、総合計画の中でそうとらえられる文言で書かれていれば、下の計画に反映されるようになる。</p>
分科会長	<p>ここで課題を漏らさず、文言として挙げておくことが大切なことなのかもしれない。</p>
市	<p>文言の漏れについては事務局でも意識していて、計画を作る初期の段階で、担当部局に対して「漏れないように」と声掛けしている。</p>
分科会長	<p>見やすさの話でいうと、各基本計画の左上にある「基本目標」と 28 頁の「分野」は異なる呼び方をしているため、表現はそろえるべきである。また、「みらい創生戦略」の詳細は 131 頁以降にあるが、いきなり本文から入っているので、目次を追加するだけでも見やすくなる。29 頁の「分野別体系」の右端にも「みらい創生戦略の基本目標」が小さく書かれているが、その先にこんなプランがあって進捗を管理していくといった流れを示す図があるとよい。</p>
市	<p>総合計画とみらい創生戦略の関係については、第1分科会でもわかりやすくなればとの指摘があったので、もう少し作りを考える。</p>
分科会長	<p>本日の意見をまとめて、事務局で修正を加えていただく。これで第7次総合計画の第4分科会の審議は終了とする。</p>

3. 今後の予定について

4. その他

5. 閉会